清流ニューズ

発行所
八王子市子安町1-22-25
清流寺
清流ニューズ編集室
電話(042)646-0287(代)
FAX(042)644-1164
http://seiryuji.jpn.org/

平成二十六年度総祈願
佛立開導日扇聖人ご生誕二百年慶讃
佛立開花運動第一年度御奉公成就
本年度自主教化誓願達成之御願
日序上人御十七回忌報恩御奉公成就
役中後継者養成・法灯相続促進

十二月の御総講日

一日　十時　御修行日
七日　十時　バースデー総講
日序上人報恩祈念
十三日　十時　高祖御命日
十七日　十時　開導御命日
廿五日　十時　門祖御命日
併御本尊御会式
於清流寺
十二日　十時　高祖御逮夜
十六日　十時　開導御逮夜
廿四日　十時　門祖御逮夜
併歓尊御命日
於羽村別院

会議

一日　御総講後　役中会議
十三日　午後三時　参事会
十七日　御総講後　教区長会議

高祖日蓮大菩薩御会式
乗泉寺巡教
川口日智上人御親修

去る十一月三日、午前十時三十分より、高祖日蓮大菩薩御会式が厳修された。

奉修御導師は、大本寺・乗泉寺御高職、川口日智上人ご親修の下、晴天のお計らいと乗泉寺より多数の団参をいただき盛大に奉修された。

当日は、恒例の七五三御礼参詣もあり、御会式の厳粛さの中に華やかさも加わり、心なごませる一面もあった。

司会から名前を呼ばれると「ハイ！」と元気な声で返事をして、御導師から記念の御祝品をいただいて、にこやかに微笑み、満堂の参詣者からお祝いの拍手をうけていた。

（詳細は二面に）

第四世講有日教上人御墓前式
平成廿七年一月十四日(水)

ありがとうございます。

さて、新年最初の団参として、日教上人御墓前式が開催されます。本年は第五支庁・開導聖人ご生誕二〇〇年慶讃佛立開花運動推進大会も同時開催となりますので当山としても各教区二名目標全体で三十名の団参を計画しております。

本山御初灯明料の奉納
志を篤く奉納しよう
一月七日迄に奉納願います

本山御初灯明料は、宗門の三大奉納金の中でも一番大きな力をもつもので、宗門運営の資となるものです。

殊に一年のお初を本山に奉納させていただくことは、一年間の「財のお計らい」の基でもありますから、今からしっかりと心掛けて志を篤く奉納させていただきましょう。

また、当山の初灯明料は一月末日が〆切です。

年末年始の行事

十二月廿五日　御本尊御会式
日頃格護されている御本尊を年に一度奉安して法味供養をさせていただく行事です。

十二月三十一日　除夜法要
第一座　十九時
第二座　廿三時三十分
一年間の御礼をさせていただきましょう。

一月一日　新年初御看経
第一座　廿四時三十分
第二座　午前七時より
※第一座は除夜法要に引き続き行います。
羽村別院は午後一時より初御看経

一月三日　新年初総講
午前十時より併成人式
一月六日より寒参詣開始

平成廿七年度 寒参詣
一月六日～二月四日
寒供養の申し込みは早めに！

一月六日より平成廿七年度の寒参詣が始まります。

例年のとおり寒供養も実施されますのでなるべく早めに申し込んで下さい。

成人式のご案内

来る一月三日の初総講に併せて平成廿七年度成人式が挙行されます。

各教区は該当者を調査して早めに事務所に申し込んで下さい。

日序上人御十七回忌報恩ご奉公
御有志奉納者氏名(その六十一)
（教区順。敬称略。順不同）
二十六年十一月七日現在
合計 八一三名、一，五七九口

本月の御妙判

丈夫の心

秀句に云く、浅きは易く、深きは難しとは釋迦の所判なり。浅きを去りて深きに就くは丈夫の心なり
（法華行事値難事）

秀句というのは傳教大師の作られた法華秀句のことである。此の書は三巻に分たれ、法華経が余経よりも勝れる十点を挙げ、此の経を信ずる者の心得を説いたものであります。

仏の教えには浅い教えと深い教えとがあり、前者を**随他意**と申し後者を**随自意**と申します。仏教すべて五十年と称し、十九で出家し三十で成道（つまり悟りを開かれた事）八十で涅槃に入られたわけですが、三十から八十迄の五十年間説法された中で、四十二年間は方便の教え、あとの八年間は真実の教えというわけです。あとの八年というのが法華経であり、法華経以前の教えというのは聴く者の機根に応じて説かれた教えですから、他の意に随って説いたので「随他意教」であり法華経は仏が自ら覚られた所を其の儘に説かれたから「随自意教」というのであります。

法師品には

此ノ経ハ方便ノ門ヲ開キテ、真実ノ相ヲ示ス。是ノ法華経ノ蔵ハ深固幽遠ニシテ人ノ能ク到ル無シ

と説かれてありまして、また、難信難解であるとも説かれてあります。法華経は有難いかも知れないけれど大変、難しいから、極く易しい念仏をするのだと法然は浄土宗を開創したのです。難しいのを修行するより易しい方がよいというのが人情というものですが、少しぐらい骨が折れても、正しいこと、御本意に叶ったことを敢えてさせて貰うのが法華経精神であるというのであります。

何か御奉公でお役を頂くようなとき、教化誓願を立てるようなとき、記念事業を計画するとき、誰でも出来るような易しいものにせず、手に負えぬような、果して出来るか、出来ないか、見当もつかぬような難しい事に挑戦するような心が法華魂でもあり、大丈夫の心でもあると示さるゝのであります。

してゆけば出来てゆくもの
出来ぬとて
止めたら止めただけの貧乏

これが本月の御奉公心得であります。